

2010年度

科目名	芸能鑑賞法Ⅱ		
担当教員	高橋 圭一		
配当	日文1	コード	24170
開期	前期	講時	火曜日4限
		単位数	2
授業テーマ	講談という古典芸能に触れ、好きになる。		
目的と概要	講談は江戸時代初期に誕生し、明治・大正・昭和に至るまで日本人に愛好された芸能である。姉妹芸である落語に比べて今は影が薄い、実は魅力と可能性に溢れた芸能である。そのことを理解するために、実演に触れる機会も設ける。		
成績評価法	講義終了時のレポート(80%)に平常点(20%)を加算する。		
テキスト	毎回コピーを配布する。		
参考書	授業中、随時紹介する。在野の講談研究者、吉沢英明氏の著書(講談作品事典/私家版など)を多く使用する。		
履修に当たっての注意・助言	漫才は1分で笑えるが、講談は短くても20分はじっくり聞きこまないと面白くならない。集中力のない人には勧められない。		
講義計画			
原則として前半は講義、後半は講談鑑賞にあてる。順不同であるが、落語の「くっしやみ講釈」(桂枝雀)、五代目宝井馬琴「三方ヶ原合戦」同「伊達政宗の堪忍袋」、二代目旭堂南陵「太閤記より矢矧橋」、六代目神田伯竜「子猿七之助」、六代目一竜斎貞水「百万両宝の入船」、六代目宝井馬琴「川中島の合戦」、四代目邑井貞吉「正直車夫」、三代目神田松鯉「殿中松の廊下」、神田紅「春日局」、神田すみれ「白隠禅師」、三代目神田山陽「安兵衛駆け付け」、旭堂南海「荒大名の茶の湯から大谷刑部」「関ヶ原合戦」「講談義士伝」ほかを用意している。また本職の上方講談師を2度本学に招いて実演してもらい、生の講談を聴く。			
第1回	受講生にとっては、落語のほうがまだ身近なはず。落語と講談の違いについて。		
第2回	これまで何度も来学していただいた旭堂南海先生の講談をビデオ・DVDで鑑賞する。		
第3回	講談の始まりについて、諸説の紹介。		
第4回	続き。芸能者「太平記」読みについて。		
第5回	江戸中期の講談師、馬場文耕。		
第6回	続き。文耕獄門と文耕の弟子森川馬谷。		
第7回	続き。狂講志道軒。		
第8回	江戸後期の名人たち、その逸話など。桃林亭東玉の芸。		
第9回	続き。佐倉惣五郎の石川一夢他。		
第10回	続き。初代神田伯山と天一坊他。		
第11回	明治の大立者、松林伯円。		
第12回	続き。		
第13回	上方の名人、二代目旭堂南陵。		
第14回	講談師来演。		
第15回	講談師来演。(2回来てもらおうが、第何回目になるかは未定。決まり次第揭示する)		